

## 動物実験に関する検証結果報告書

関西福祉科学大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2023年3月

2023年3月10日

関西福祉科学大学  
学長 八田武志 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会  
理事長 三好一郎



対象機関：関西福祉科学大学  
申請年月日：2022年7月25日  
訪問調査年月日：2022年10月7日  
調査員：吉田道生、久保 薫

#### 検証の総評

関西福祉科学大学は1997年に開学した、社会福祉学部・健康福祉学部・保健医療学部・心理科学部・教育学部の5学部6学科及びに大学院を擁する私立大学である。動物実験は健康福祉学部において栄養科学の研究と教育を目的に実施されている。文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則した「関西福祉科学大学における動物実験の実施に関する規程（以下「動物実験規程」という。）」を定め、学長の下、動物実験管理委員会を設置し、動物実験計画の審査、承認、結果報告、動物実験の実施状況及び実験動物の飼養保管の把握、教育訓練、情報公開などが適正に実施されている。飼養保管施設は研究・教育目的に応じ、マウス・ラットの1施設が設置されており、基本指針及び環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則った飼養保管体制を整え、動物実験管理者と実験動物管理者の管理の下、衛生的な飼養環境が維持されている。教育訓練では学部学生にも研究者と同等の高いレベルの内容が教育され、意欲的な取り組みがなされている。公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）に加盟し、同協議会主催の実験動物管理者の教育訓練等にも積極的に参加して最新の知識と国内外の動向の取得・収集

に努めている。

総合的に見て、良好な実施体制の下で適正な動物実験並びに実験動物の飼養保管が実施されている。今後、より充実した実施体制を構築するためにも、機関内規程及びその関連書式の定期的な見直しを検討されたい。



## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
- 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程を定めていない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験規程（2020年5月1日改正・施行、以下「動物実験規程」という。）」が定められ、その内容は基本指針及び飼養保管基準に適合している。従って、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。

##### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

##### 4) 改善に向けた意見

公私動協が公開する最新の機関内規程（雛形）を参考に、条項の一部補足を検討されたい。

#### 2. 動物実験委員会

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
- 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会を設置していない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

2016年8月1日に動物実験規程が改正・施行され、これに伴い「関西福祉科学大学動物実験管理委員会規程」を廃止し、動物実験規程において委員会の役割や構成等を定めている。「関西福祉科学大学動物実験管理委員会」は、動物実験等に関して優れた識見を有する委員が3名、実験動物に関して優れた識見を有する委員が2名とその他学識経験を有する者が1名で構成され、常に3要件の委員により審査される体制がとられており、基本指針に適合している。従って、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。

##### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は設置されていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

### 3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験規程において「動物実験申請書」「審査結果通知書」「飼養保管施設・動物実験室設置（変更）承認申請書」「飼養保管施設・動物実験室設置（変更）調査結果通知書」「施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届」「動物実験（終了・中止）報告書」「実験動物飼養保管状況報告書」などの各種様式が定められている。従って、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

国立大学法人動物実験施設協議会のホームページに掲載されている様式を参考に、動物実験申請書への提出先の明示及び委員会の審査結果記入欄の追加等の修正を検討されたい。また、動物実験報告書については、年度を越える動物実験計画を承認する場合には年度ごとの経過を報告する様式の整備を検討されたい。

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験規程に安全管理に注意を払うべき実験（物理的、化学的に危険な材料を用いる実験、病原体を取り扱う実験、遺伝子組換え動物等を用いる実験）は実施できないことが明文化されている。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。

- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

## 5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設は、動物実験室と隣接して1施設が設置されている。飼養保管される実験動物は動物実験規程によりマウスとラットに制限されている。実験動物管理者を置き、飼養保管基準に沿った「実験動物の飼養保管手引き」及び「動物逸走事故対応マニュアル」が整備されており、地震、火災等の緊急時に備え「関西福祉科学大学動物実験等における災害対策マニュアル」が策定され、緊急連絡網も策定・掲示されている。従って、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

## 6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

2015年度に第2期外部検証プログラムに基づく外部検証を受けており、今回が2回目である。

2015年度の外部検証で指摘された規程への「輸送時の取扱い」「施設廃止届」に関する条文の追加や動物管理委員会の役割の明記について適切に対応し、実施体制が更新されている。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会の活動状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験管理委員会では動物実験計画書の書面審査の他、年2回の委員会開催で報告書に基づく動物実験の実施状況、実験動物の飼養保管の把握及び自己点検・評価が実施されており、その審議結果は学長に報告され、承認されている。過去の一部資料の保管不備については、既に再発防止策が講じられており、現在は議事録及び審議資料等が適正に保管されている。従って、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 2. 動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

2021年度は学生実習のための動物実験計画1件の審査が行われ、審査過程の記録も保管されており、動物実験計画の立案、審査、承認等が適正に実施されている。実験実施後に動物実験終了報告書並びに動物実験の自己点検票が提出され、動物実験管理委員会で動物実験の適正な実施状況等が把握されている。動物の逸走や実験実施者の負傷等の事故の発生もない。従って、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験規程に安全管理に注意を払うべき実験は実施できないことが明文化されており、2021年度に該当する動物実験は実施されていない。従って、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 4. 実験動物の飼養保管状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物の飼養保管は、実験動物管理者及び研究者により「実験動物の飼養保管手引き」に則して実施され、「実験動物飼養保管記録簿」に記録・保管されている。承認されている動物実験計画では飼育期間が1か月以内と短く、繁殖を行わないため飼育期間中の微生物学的モニタリングは実施していないが、実験動物の導入時にブリーダーの微生物検査成績により書面検疫を行っている。また、飼育環境は外部委託職員及び研究者による消毒・清掃により衛生的に管理されており、実験動物飼養保管状況の自己点検票で問題等が生じていないことを確認している。従って、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

## 5. 施設等の維持管理の状況

### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設に設置されている空調機付きクリーンラックは、定期的に温度・湿度・清潔度が適正に保たれているかの確認が行われ、その結果が「恒温恒湿飼育装置の定期検査結果報告書」に保存されている。施設等は動物実験管理委員会による点検が適宜行われ、その状況は「動物実験管理委員会による動物飼育・実験室視察時の点検票」と「実験動物飼養保管状況の自己点検票」に記録・保存されている。施設は施錠管理され、「入退室記録」が保存されている。また、動物実験管理者は施設に必要な改修を行っている。従って、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

### 3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 4) 改善に向けた意見

特になし。

## 6. 教育訓練の実施状況

### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験を計画している教員・研究者は、教育訓練を義務づけられており、基本指針や機関内規程に則した教育訓練が実施され、その記録が保存されている。また、学生実習の学部学生に対しても職員・研究者と同等の教育訓練が実施されている。動物実験管理者及び実験動物管理者は公私動協主催の実験動物管理者研修を定期的に受講している。従って、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

### 3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 4) 改善に向けた意見

特になし。

## 7. 自己点検・評価、情報公開

### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 2) 自己点検・評価の妥当性

自己点検・評価を毎年実施し、大学ホームページ（大学紹介）内の大学の取り組みに、自己点検・評価報告書、機関内規程、外部検証の結果、教育訓練及び動物実験委員会の情報、実験動物の飼養保管状況を含めた動物実験報告等の動物実験に関する情報を公開している。従って、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

### 3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

### 4) 改善に向けた意見

特になし。

## 8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

動物実験管理者及び実験動物管理者が公私動協主催の実験動物管理者の教育訓練に加え、日本実験動物学会が開催する研修等にも積極的に参加し、動物実験並びに実験動物の飼養保管に関する最新の知識や国内外の動向の取得・収集に努めていることは高く評価できる。